

# キイロサナエ

*Asiagomphus pryeri* (Selys)

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

## 選定理由

加賀地方では絶滅したと思われる。近年、津幡町や口能登の数箇所から見つかったが、個体数は少なく、開発の危機にさらされている。

## 形態

腹長42~49mm、後翅長37~43mmで、ヤマサナエによく似た大型種である。

## 国内分布

日本特産種で、本州、四国、九州に分布するが、ヤマサナエほど普遍的ではなく、関東北部や東北ではほとんど見られない。富山県では小杉町に生息し、福井県からは近年いくつかの生息地が見つまっている。

## 県内分布

近年になり、津幡町、かほく市（宇ノ気町）、志賀町で生息が確認されている。

## 生態

幼虫は平地や丘陵地の砂泥底のゆるい流れ（小川や用水）に育ち、ヤマサナエより下流に生息するケースが多い。成虫は5月下旬から8月に出現する。未熟期は林野など広範囲に分散するが、成熟すると発生地である小川付近で活動する。ヤマサナエに習性は似るが、出現期がやや遅い。

## 生息地の条件

丘陵や山麓の汚染のない砂泥底の緩流（小川や用水、河川の中流など）が発生地である。その周辺に樹林や草地があることも重要。

## 生存の危機

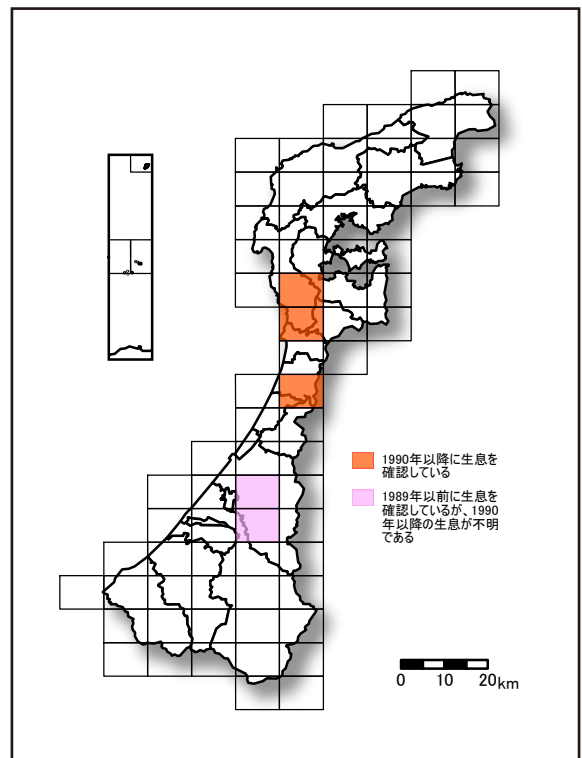
幼虫がヤマサナエよりも下流に生息するため、人間の生活圏と重なることが多く、人為的影響を大きく受けることになる。小川や用水は、一時は農業で、近年は廃水や廃棄物の投入、コンクリート化により本種の生息が困難となった。水路の直線化や川床ならし、水抜きの影響も大きい。周囲の宅地化や雑木林の伐採も間接的なマイナス要因となる。未熟期を過ごす林野も開発や道路建設と車輛の通行増加で生息環境として適さなくなっている。（A）

## 参考文献

武藤 明 1988. 昆虫の生態をめぐって. とっくりばち, (65) : 8-10.  
浅地哲也 2001. 中能登でキイロサナエを採集. とっくりばち, (71) : 25.



標本提供者：武藤明



県内の分布